

日本の色⑩ 緑：青と黄の間色。草木の葉のような色を指す。俳句や和歌では夏の季語として使われる。



藤代峠からの眺め。庭園のほぼ全景が見られる。



滝見の茶屋からの景色。「枠取り」の技法で絵画的に観賞する。

仙人が住むという蓬萊島。アーチ形をしている。



Takeo Inagaki

稲垣丈夫氏
1937年東京都生まれ。60年千葉大学園芸学部卒業。80年に稲垣ランドスケープデザイン研究所を設立。東京都府中市市政ディレクターとして活動中。新宿中央公園など数々の造園を手がける。

池泉回遊式庭園「六義園」

自然の美しさ四季の素晴らしさを凝縮して造られている日本庭園。名園の一つ、東京・駒込にある「六義園」を歩きながら、その造形美に触れる。

六義園：1702年、川越藩主・柳澤吉保が築園した「池泉回遊式」の庭園。明治時代に三菱財閥創業者である岩崎彌太郎の別邸となったが、1938年東京市(都)に寄附された。53年には国の特別名勝に指定される。JR・地下鉄「駒込」駅から徒歩7分。

池泉回遊式庭園：池を中心とした庭。池の周辺を歩きながら、その庭の眺めを楽しむ造りになっている。池の形も複雑で、築山や石組み、植栽、橋、建物などを配している。

- 1 蓬萊島：神仙思想を主題とした石組みの一つで、アーチ形をしている。仙人が住む島とされている。
- 2 臥龍石：龍の背のような姿を見せる。
- 3 滝見の茶屋：東屋の横には溪流と滝がある。東屋の中に座り、そこから風景を切り取って鑑賞するようにできている。「枠取り」の手法。
- 4 吹上茶屋：中の島や池を見ながら抹茶と和菓子が頂ける茶屋。秋には見事な紅葉が見られる。
- 5 藤代峠：庭内で一番高い築山。富士見山と呼ばれるその頂からは、六義園の全景を見渡せる。
- 6 つつじ茶屋：つつじの古木材を用いて建てられている。戦災を免れ、貴重な姿を今に残す。
- 7 渡月橋：2枚の大岩で造られている橋。その重量感が厳かな雰囲気を醸し出す。

自然の偉大さ、四季の美しさを凝縮した空間

全国の日本庭園

平等院・世界文化遺産。約千年前に建立された建造物や仏像がある。京都府宇治市宇治運華116 JR・京阪線「宇治」駅から徒歩10分

毛越寺・日本最古の浄土庭園。岩手県西磐井郡平泉町平泉字大沢58 JR東北本線「平泉」駅から徒歩7分

桂離宮・日本庭園最高の名園と言われている。京都市西京区桂御園 阪急線「桂」駅から徒歩20分

兼六園・日本三名園の一つ。1709年をかけて築園された。石川県金沢市兼六町1-4 JR北陸本線「金沢」駅から徒歩15分

借楽園・日本三名園の一つ。水戸九代藩主徳川斉昭が造園。茨城県水戸市見川1-12551 JR常磐線「水戸」駅から徒歩15分

後楽園・日本三名園の一つ。江戸時代を代表する林泉回遊式庭園。岡山市後楽園1-5 JR岡山「岡山」駅から徒歩10分

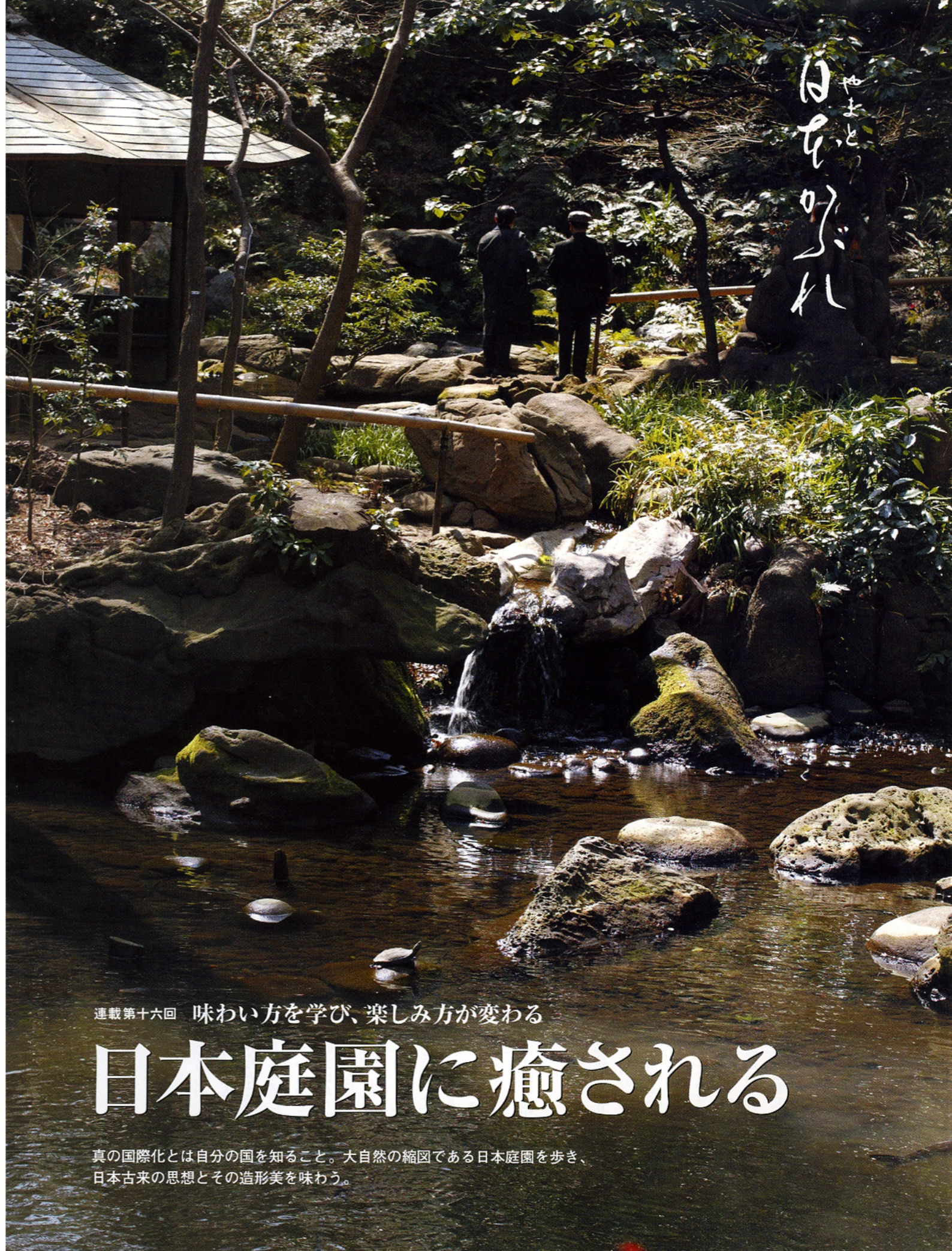
醍醐寺三宝院・池泉回遊式庭園。建物内から観賞する設計にもなっている。京都市伏見区醍醐東大路町22 地下鉄「醍醐」駅から徒歩10分

text by 渡辺幸裕(案内人)・photographs by 北山宏一

自然と思想の日本庭園

日本庭園と聞くと何を思い浮かべるだろう。枯山水、お寺の庭、家の庭、池、飛び石、灯ろう、つくばい……人それぞれイメージが違うと思うが、身近な庭を知ることが自分の国を知ることでもある。日本庭園は石、水、植栽を使い、自然の美しい景色を狭い空間に凝縮して表現したものだ。大きく分けて3つの種類、池泉式、枯山水、露地(茶庭)がある。古来からの日本人の自然感、それに伴って発達した庭園様式、時代背景、庭園を貫く思想などを学ぶとさらに見方が面白くなる。東京・駒込にある「六義園」に赴き、各地の庭園や植栽の設計をされている稲垣丈夫氏にお話を伺った。

今回訪ねた六義園は池泉回遊式庭園の典型である。貴族の時代は池に楽団つきの舟を浮かべ優雅に遊んだ池泉舟遊式が主であったが、庭を歩いてその景色を楽しむ回遊式は武家社会になって発達した様式である。側用人柳澤吉保はどんな気持ちでこの庭園を歩いたのか、將軍綱吉との関係をどう癒



日本の庭園

連載第十六回 味わい方を学び、楽しみ方が変わる

日本庭園に癒される

真の国際化とは自分の国を知ること。大自然の縮図である日本庭園を歩き、日本古来の思想とその造形美を味わう。

【書籍】

『図説 日本庭園のみかた』
 (宮元健次著、学芸出版社)
 『日本庭園』の見方
 (斎藤忠一監修/田中昭三取材・文/
 『サライ』編集部編、小学館)
 『岩波 日本庭園辞典』
 (小野健吉著、岩波書店)

【ウェブサイト】

東京都公園協会
<http://www.tokyo-park.or.jp/>
 日本庭園探訪
<http://www.teien.co.jp/>
 日本庭園の美
<http://www.ifnet.or.jp/~chisao/>
 会員制有料サイト ジャパン・ナレッジ
<http://www.japanknowledge.com/>

時代	作庭例と特徴
古代	石舞台古墳、環状列石など
飛鳥・奈良	須弥山・反橋 寝殿造り庭園：池泉・中の島・遣り水など 浄土式庭園：極楽浄土の世界を表現した庭園……毛越寺、平等院など
鎌倉	自然の地形を利用した修行の場……天龍寺、西芳寺など
室町	枯山水式庭園：禅宗寺院の庭園……龍安寺石庭など。石組み・白砂・刈込み
安土・桃山	露地(茶庭)：茶室・石灯ろう・つくばいなど
江戸	回遊式庭園：大名式庭園……後楽園、兼六園など 宮廷庭園……桂離宮、修学院離宮
明治	無鄰庵庭園(借景) 公園制度の始まり：太政官布達、日比谷公園
大正	清澄庭園、旧古河庭園など 都市計画法、震災復興公園

日本の造園史をまとめたものとなる。

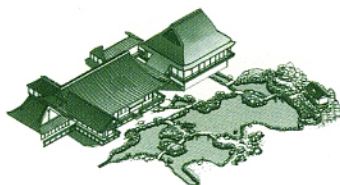
日本庭園がいつ頃どのような形で造られたかは定かではないが、『日本書紀』に、蘇我馬子が小島を持つ池泉を築いていたと記されている。具体的な造園技術は、6世紀半ばに百濟から仏教とともにもたらされたと考えるのが妥当。その後独自の発展を遂げ、世界に類を見ない庭園が出来上がった。フランス式、英国式などの各国庭園の思想と比べるのも面白い。

庭園を五感で感じ、心静かに観賞する

庭園の主な種類と用語

用語説明

- ① 猪おどし：添景色の一つ。農作物を猪に荒らされないように考案されたもの。別名借都(そうず)。
- ② つくばい：茶室に入る前に客が手を洗うためのもの。
- ③ 灯ろう：つくばいのそばや露地で明かりが必要な場所に配置される。
- ④ 飛び石：露地を歩く際に足元が汚れないようにするためのもの。道しるべでもある。
- ⑤ 遣り水：庭園の中に添景として取り入れた水の流れ。
- ⑥ 砂紋：枯山水に見られる、海面を表現した砂の模様。



池泉式庭園：池を中心として造られた庭。池での舟遊びを主とした「池泉舟遊式」、池の周りを歩いてその眺めを楽しむ「池泉回遊式」、特定の建物の中から庭を絵画的に観賞する「池泉観賞式」などがある。

露地：茶室の前に設けられている庭で、一般的には「茶庭」と言う。当初は茶室に入るための渡りの庭として登場したが、やがて静かに茶を点てて心を和ませるための庭として位置づけられるようになった。

枯山水：水を使わず砂や石組みによってそれを表現している庭。その造園には禅宗の思想が大きく影響している。

—— 日本庭園に出かける装い ——

ぼかしの小紋はパーティールにも着ている着物。縦枠の金箔に菊唐草の刺繍が美しい帯を合わせて春らしい装いに。

(廣岡理恵さん=読者、出版社勤務)



春向きの軽やかな紬に、兵児(へこ)帯を合わせました。気軽にぶらりというお散歩気分がぴったりです。(渡辺幸裕)

着物撮影協力/銀座もとじ

案内人・文 渡辺幸裕(わたなべ・ゆきひろ)
 ビジネス・コーディネーター。1950年生まれ。前職のサントリー宣伝部で、海外イベントを担当した時、自国文化についての知識のなさを痛感。2001年独立を機にビジネスパーソン向けに日本文化超初心者向けの会「和・倶楽部」を授唱、運営中。会のコンセプトは「日本人に生まれたことを喜びたい」。

【告知】

日本かぶれの会
 六義園を歩く

大自然の縮図である日本庭園「六義園」を歩きながら、庭内に凝らされた意匠の数々、そしてその根底に流れる思想について稲垣丈夫氏にお話ししていただきます。お茶の時間もご用意しています。ぜひご参加ください。

日時：6月4日(土) 13:00~15:00
 会場：六義園
 募集人数：10人
 参加実費：2000円(予定)
 締め切り：5月10日(火)

応募方法：<http://nba.nikkeibp.co.jp/yamato16/>で必要事項をご入力ください。
 発表：抽選のうえ、当選者に直接ご連絡します。

ご応募いただいた方に、本誌の取材協力者として取材や写真撮影をお願いすることがございます。ただし、これ以外の目的で応募者の個人情報を使用することはございません。

したのか、そんなことを調べてみるのも面白い。

表情豊かな癒しの空間

ビジネスのことを頭の中から振り払って庭園内を歩くと、次々と表情を変える景色に癒やされていく。見る場所によって池の形が変わり、季節が変われば木々の色も変化する。どの場所にもどの木を植えると景色がどう変わるか、設計思想を知らなければ知るほど素晴らしい工夫だと感銘を受ける。

陽の光に輝く水面、鳥の声や木々の音、風を頬に感じ、花の香りに包まれる。そう、自然は五感で感じるものなのだ。緑と水が気持ちをしらげ、至福の時間が流れ

る。そういう気持ちで近所の庭、料理屋さんの庭なども眺めてみよう。街中にも日本を感じ、癒される場所があるのだ。

107ページにあるように出張の際にでも少し足を伸ばせば素晴らしい名園に会える。庭園の楽しみ方を知ることがお客様への接点にも役立つが、ストレスの多いビジネスパーソンにこそ、日本庭園が癒しの空間であることを知っておいてほしい。稲垣氏にお話を伺っているうちに、奥の深い日本庭園をアソシエ読者により知ってもらいたい、ビジネスに生かしてもらいたいと思いはじめた。そこで次号は、禅宗の影響を受けた庭園「枯山水」をテーマとする予定である。